

世界に送り出したいのは

自衛隊ではなく平和憲法

憲法改悪を競いあう
自民・公明・民主

小泉首相は、自衛隊のイラク派兵に続いて、有事法制を導入し、憲法改悪まで強行しようとしています。国会に設置された憲法調査会は、05年1月には改憲の方向を打ち出す最終報告を発表するとしています。自民党は、05年秋に改憲案をまとめるとしています。民主党は、「憲法を『不磨の大典』とすることなく、...『論憲』から『創憲』へと発展させる」を掲げています。6月には、自民・公明・民主が改憲に向けての「論点整理」「中間報告」を発表予定で、3党が期限を切って憲法改悪を競いあっています。

財界が改憲へ動く
憲法まで“買収”

日本経団連は、5月27日の総会で憲法「改正」に向けて運動方針を決めました。

同会として初めて憲法「改正」問題の専門委員会を新設しました。

同会は、昨年1月に「奥田ビジョン」を発表、政党の政策を「評価」(採点)し、それにもとづき企業献金を再開。政党の政策をカネで“買収”しています。

今回、その「政策評価」に憲法「改正」を加えるというものです。



憲法

9

条を守りましょう

憲法9条は
日本の宝、
世界の流れ

憲法には、国民の苦難の歴史と反省がこめられています。「戦争をしない国」を宣言した憲法9条は、世界から尊敬されています。

いま、世界の人々は、数千万人が立ち上がったイラク戦争反対運動が示したように、アメリカ政府による戦争に反対し、新しい歩み始めています。



一緒に
力をあわせましょう

世界の流れに逆行する憲法9条の改悪は、絶対許してはなりません。

国会での憲法改悪の発議を断念させ、

戦争のない平和な世の中をつくるために、手をつなぎましょう。

「戦争反対」「平和憲法守れ」の共同が大きく広がれば、憲法改悪をやめさせることができます。

